

## 第 62 回 小仏城山

第 6 支部 (株) ケミカル  
常務理事 石井洋介

梅雨空も消え、最高の天気めぐまれた 6 月 9 日日曜日、私は初めてハイキング同好会に参加させて戴いた。中学生の時、兄と一緒に丹沢登山に行った記憶しかない私にとって服装のこと、靴はどうしたらいいのか何から何まで迷ってしまい、東塗商だよりの過去のハイキング同好会の参加者の皆さんの写真を参考にさせて戴いた。

私は月曜から土曜日は、早朝約 40 分ジョギングに出掛ける、体力には自信があるが山登りは不安が残る。乾同好会幹事に『今回の小仏城山のコースは大変ですか』と質問すると高尾山から軽いアップダウンですよとのこと、同じ質問を若林氏に聞くとそんなもんじゃないと一喝、仕方なく 6 月 2 日日曜日、新品のハイキングシューズで 3 時間続けて歩いた。京王線新宿発、7 時 30 分の特急高尾山口行きの電車が便利ですとの親切なアドバイスでしたが、先回りして京王線笹塚駅で乗車待ちしていたところ、特急電車は笹塚駅を通過してしまい私の乗車した電車は急行高尾山口行きでした。

同好会幹事様一行は、特急電車に乗車していたそうですが、『初参加の総務委員長が遅刻かな』と高尾山口駅で心配していたところに私が到着、集合時間ギリギリでした。後で聞いたところ、心配ではなく遅刻課徴金を内心期待していたそうです。笑い

同好会幹事の乾氏、磯部氏、前事務局長の山本氏、(株) 内田の内田氏、(株) オオイの大井氏と私の 6 名の参加、何と『若林氏がまだ来ない』との心配をよそに、高尾山口駅前で早速記念撮影となりました。

内田氏が、当日の体調を考慮し、ケーブルカーにて急遽、山頂へ向かうことになり、私たちは一路稲荷山コースを散策しながら高尾山頂 (599 メートル) に向かいました。

晴天のせい大勢の登山客の中に、乳児を背負ったヤングパパ、4 歳の男の子を連れてきた若夫婦、大学生の団体グループ等こんなにも山登りが好きな人がいるとは大変びっくりさせられました。

高尾山途中での八王子市の街並み、多摩丘陵の景色もすばらしく、うぐいすの鳴き声も堪能しながら山頂を目指して約 1 時間、無事高尾山に到着となりました。高尾山の最後の木製の階段の多さには、さすがに私もこれから大丈夫かなと不安になりました。

山頂では、内田氏が出迎えて下さり、ゆっくり休憩し全員元気いっぱいさあ出発。紅葉で有名な、もみじ台を通り、絶景の一丁平の風景をながめつつ、小仏城山に向かいました。高尾山を過ぎると極端に人々が少なくなるのがわかります、大井氏も何回も『人が少ないといいですね』との連発、確かに人が少ないと、きつい香水の香りがなくなり、木々の香り、空気のおいしさ、関東ローム層の乾いた土の香りがなんとも言えない、これがハイキングの醍醐味かなと感じるようになった気がします。

高尾山から約一時間、目的地の小仏城山 (670.6 メートル) に無事到着、そして楽しい食事

となりました。さすがに私もおなかがペコペコ、愛妻焼きおにぎりを3個たて続けに食べようとしたら内田氏にかどやで飲めなくなるからやめなさいと怒られました。磯部幹事の手作りブレンド紅茶、乾幹事の感激黒生ビール、内田氏の瓶ビールと高級ブランドウイスキーの差し入れ、本当にありがとうございました。

酔いがさめぬまま、さあ出発、東海道自然道を一気に下る道、約一時間をかけて無事下山、相模湖駅行きのバス停に着き、全員バス乗車となった。

午後 1:00 かどやで、予約席を確保して戴いた、当日欠席となってしまった若林氏と合流し、参加者にとっては楽しい打ち上げ会となった。

初めてのハイキング同好会に参加し、自然のすばらしさはもちろんのこと、自然を楽しむあらゆる年代層の人々のマナーのすばらしさ、特にゴミが一つも落ちていないことにふと感動させられました。私の落とした小さなハンカチも拾ってくれたかも。また参加させて下さい。本当にありがとうございました。

(高尾山口出発 AM8:43~PM12:47 バス停着・休憩含め約3時間・磯部氏のデジタルカメラデータ記録より)